

特集①：平成25年度 公開セミナーから

「深山の妖精」からのメッセージ 生物との共生を考える 未来に生きる子ども達の為に

茅野ミヤマシロチョウの会 福田勝男

2010年名古屋で開催された国際会議「COP10」の主題、「生物多様性」という言葉。最近よく聞くようになりましたが、理解している人は少ないのが現状です。人間は生物から、衣食住・薬品・酸素、化石燃料、そして文化など、非常に多くの恩恵を受けています。この恩恵がなければ人間という生物も生きることができません。

現在、その生物多様性は、開発や盗掘、森林・田畑管理放棄、外来生物の持ち込み、地球温暖化という「4つの危機」に直面しています。未来の子ども達の為にも他の生物と共生できる自然環境を保全・保護することが必要です。そのため、「生物多様性」をよりわかりやすく伝え、より多くの人に理解してもらうことが必要です。私は「生物との共生を考える」という言葉を活動展示などに使用しています。

ここでは、生物多様性のシンボルであり、深山の妖精と言われるミヤマシロチョウの現状と「茅野ミヤマシロチョウの会」の活動について述べます。

ミヤマシロチョウとその現状 ミヤマシロチョウは「茅野市の宝」

ミヤマシロチョウは日本の蝶約250種のうち八ヶ岳で発見された唯一のチョウです（明治34年）。天然記念物にも指定されている「茅野市の宝」です。現在、ミヤマシロチョウは八ヶ岳山麓の限られた場所（諏訪市に3ヶ所、茅野市に2ヶ所）に生息していますが、生息個体数は減少し自然状態ではほぼ絶滅状態になっています。そのため、幼虫の生息する巣（幼虫は巣の中で集団で生活する）に天敵防止のネットを架け保護しているのが現状です。昨年は自然状態で幼虫は越冬できず死滅し、ネット架けは中止されました。今年は原村管理地から飛来したと思われる成虫による2巣にネット架けを行い、27頭の羽化が確認されました。11月10日の越冬巣調査では7巣を確認しました。



稲刈り後の収穫祭・子ども自然探検隊



ウツボグサにとまるミヤマシロチョウ

茅野ミヤマシロチョウの会

本会は、平成20年3月、(1)ミヤマシロチョウをはじめとする生きものや環境の保護・保全を図ること、(2)自然体験活動を通じて「こども育成」を図ること、(3)活動を県内外に発信する拠点とすることを目的として、任意団体として設立されました。事務局は八ヶ岳総合博物館に置いています。翌年4月には、自然体験活動を主眼とし「こどもの育成」を行う「こども自然探検隊」を立ちあげました。平成22年6月には、長野県希少生物ミヤマシロチョウ保護回復事業の認定を受け、平成24年2月からは、特別指定希少野生動植物「ホテイラン」調査・監視もおこなっています。平成25年からはこども体験活動の「こども育成」の中で「特定外来生物オオキンケイギク」の撲滅活動も実施しています。

※（編集者注：ご本人の了解を得て、公開セミナーの講演要旨集から一部を省略し、転載しました）